

「不要な個所は削る」

エッセー書くこつ学ぶ

館林で講座

館林市の市立図書館で25日、市教育委員会主催の「田山花袋記念文学館かきたいもん講座『はじめての1枚エッセー』」地元を魅力的に伝える技術―朗読・鑑賞編』が開かれ、市民ら20人がエッセーを書く際のポイントやこつなどを学んだ。

同講座は田山花袋とその作品への関心を高め、市民の文学的活動の振興を図るのが狙いで、

05年度から開いている。今回は2回に分けて行われ、ジャーナリストの橋本淳司さん(39)⇨代官町⇨が講師を務めた。

11日に行われた1回目の講座では、橋本さんの指導を受けながら参加者たちが「館林のおすめ」というテーマで400字程度のエッセーを作成。2回目の今回は、それらをナレーターの小沼朝生さん(38)⇨東京都

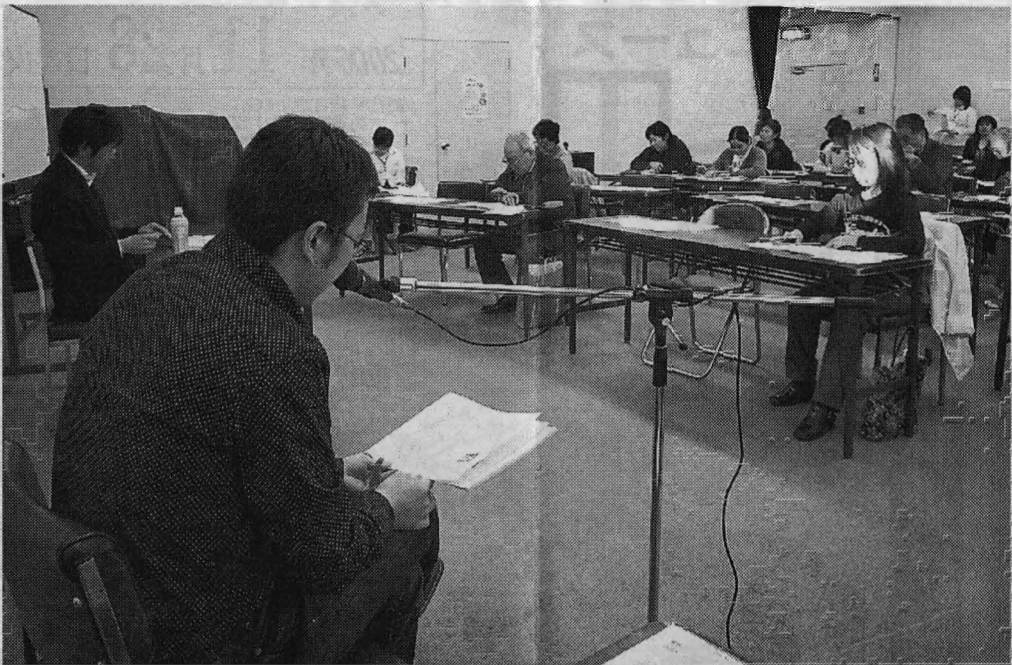
杉並区⇨が朗読し、耳で聞くことで文章の分かりやすさ、リズム感を確認しながら、橋本さんが詳しいアドバイスを行った。

橋本さんは、それぞれのエッセーの魅力的な部分や直した方がいいポイントなどを指摘。「不要と思われる個所を削っていくことで、文章が磨かれます。私の場合、6千字の文章を書くのに、最初に1万字くらいは書くようにしているんですよ」と自身のケースも披露した。

シンプルにまとめるこつとして「同じ事柄や言葉の繰り返しは切る」「説明は重要度の高いものだけにする」「難しい言葉は使わない」ことなどを紹介した。参加者たちは時折うなずいたり、メモを取ったりしながら、真剣な表情で聞き入っていた。

た。

石橋彩音さん(館林三中1年)は「自分が書いたものなのに、読まれると全然違ったものを感じられてすごいと思った。勉強になった」と笑顔で話していた。



小沼さん(手前)の朗読に聞き入る参加者たち